



みんなともだち

園長 本多 郁代

この1年、同年齢で生活を共にしたり一緒に遊んだりすることを大切にしつつも、異年齢の友達と交わる機会を意図的に取り入れ、二つの保育形態を組み合わせながら保育を行ってきました。

はじめは、遊びのパターン化や人間関係の固定化などのマイナス面を補う方法の一つとして取り組んでいましたが、学年を超えて仲良く遊ぶ子どもたちの姿から、様々なプラスの効果が見えてきました。

例えば、お祭りごっこでは、魚がうまく釣れない年少さんに、年長さんがゆっくり数を数えて魚を釣るチャンスをさりげなく作ってあげる姿が見られたり、生活発表会に向けて年中さんが頑張っている様子を見ていた年長さんが「道具を出すのが大変そうだから手伝おうか」と声を掛け、本番での大道具の出し入れを担当することになったり、子どもたちに思いやりの心が育っていると感じることができました。

また、アスレチック遊びでは、年長さんが跳び箱をバンバン跳び越える姿に憧れて、下学年の子どもたちが自ら年長さんに混じって跳び始め、失敗しても諦めずに何度も何度も挑戦をした結果、みごと跳び越える姿がありました。成功した子どもの達成感あふれる誇らしげな笑顔が、とても心に残っています。

また、同年齢の友達同士で遊んでいる時には、ちくちく言葉が飛び交う場面が見られるのですが、先輩が同じ遊びに加わることで、何とも言えない落ち着いた雰囲気になり、その場にいる友達みんなが受け入れられている安心感に包まれて、仲良く遊ぶこともできました。

さらに、保護者の皆様からも、「他学年の友達の名前が会話の中でよくでてくる」「自分が年長になることを楽しみにしている」「年中、年長さんがお手本でもあり憧れでもあるのか、弟に優しく接している」などの感想をいただいています。

このような子どもの姿は、同年齢の学びを基本としながらも異年齢の学びを取り入れた結果であると考えています。これからも互いを「みんな（大切にかけがえのない）ともだち」と思えるよう、全職員で力を尽くしてまいります。

